

ロールが悪いが、逆にかなり良い人も多い—といった特徴が浮かび上がった。中断理由を複数回答で尋ねると「忙しい」「体調が良い」「今通院しなくても大丈夫」「医療費が負担」などが多かった。野田さんは「こうした中断の背景を理解した上で医師もできる工夫をしてほしい」と話す。

▽理解が意欲に

既に動きだしている医療機関もある。糖尿病治療が専門の**朝日生命成人病研究所**（東京）は11年の施設移転を機に、初診時の患者への個別指導を充実させた。医師の診察に続き、糖尿病とはどんな病気か、今の生活のどこを見直すと効果的かなどについて、看護師と栄養士がそれぞれ時間をかけて患者と話し合う。

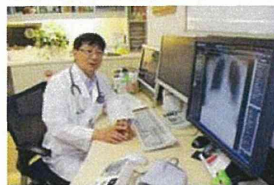
「実は中断防止を意識して始めたものではありませんが、調べてみると、指導を受けた人の中断率は受けていない人より4割程度低かったのです」と吉田洋子診療部長。「糖尿病は自覚症状がないの

で、なぜ治療が必要かについて最初に理解することが継続意欲につながるのでは」と推測する。

▽選択肢と励まし

名古屋市中心部から地下鉄で20分ほどの住宅地でクリニックを営む三浦義孝医師は、平日夜7時半まで診療を受け付けている。「勤め人男性が通院しやすいように」というのが理由の一つだ。

大病院で糖尿病の診療に当たっていたころ三浦さんは、男性の治療中断は予約を1度キャンセルした後に起きやすいと感じていた。多忙で予約の日に来られない人は、次の予約日も決めにくい。だから開業後は予約なしの受診も可とした



夜7時半までクリニックを営んでいる三浦義孝医師
—名古屋市中東区

。「選択の幅が広がれば治療は継続しやすい。ご主人の足が遠のいた時、奥さんを通じて注意喚起できるのも、家族を診ている開業医の強み」と話す。

兵庫県尼崎市の貸しビル業高本誠介さん（58）は、35歳から20年以上、この病気と付き合っている。一時は血糖値を下げることにこだわりすぎて燃え尽きたようになり、治

療に嫌気が差したこともあったが「主治医らの励ましで何とか中断せずに済んだ」と振り返る。

同じころ発症した同年代の知人は治療中断の結果、視力の低下で仕事が続けられなくなり、腎臓も悪化して人工透析を受けているという。インスリン注射をしつつスポーツも外食も楽しんでいる高本さんは現在、医療関係者と患者らでつくる日本糖尿病協会の理事として治療継続の大切さを訴えている。（共同通信 吉本明美）

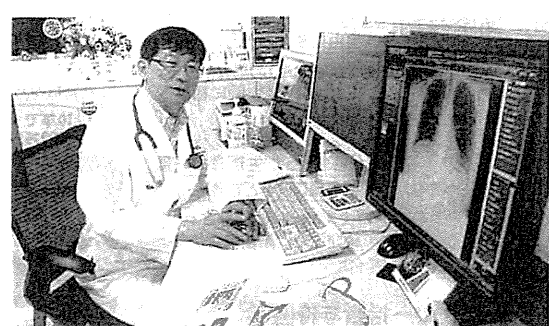


吉田洋子 朝日生命成人病研究所診療部長

医療・健康

糖尿病治療 中断防ぐには

自覚症状が乏しい2型糖尿病では、年に患者の1割近くが治療を中断しているとみられることが厚生労働省研究班の調査で明らかになった。研究班は結果を基に、かかりつけ医向けの中断を減らす対策マニュアルを作成し、医療側に積極的な対応を求めている。



午後7時までのクリニックを開いている浦野洋子医師（名古屋市東区）

糖尿病受診中断を防ぐ主な対応例

- ・初診時に継続的な受診が必要であることを伝える
- ・栄養指導、療養指導は有効
- ・患者に時間のゆとりがない場合は、可能な範囲で受診時間の融通を図る
- ・インスリンや薬剤が残っている場合は、医療費が経済的負担になっている可能性を考える（負担になっている場合は、より安い薬や後発医薬品を検討する）
- ・中断者には電話や郵便で受診勧奨する
- ・過去に中断したことがある患者には、中断理由を聞き、対策に役立てる
- ・腎機能を確認する尿アルブミン値の検査、眼科受診、足の診察を勧める
- ・禁煙を勧める

*糖尿病受診中断対策マニュアルより。国立国際医療研究センター糖尿病研究部のホームページ (<http://ncgm-dm.jp/renkeibu>) に掲載

●高まる合併症の恐れ

中断によって糖尿病が悪化する。腎臓や目などに重い合併症を起す恐れがある。研究班は2009〜10年、生活習慣などが原因で発症する2型糖尿病患者のうち100人を対象に振り分けた研究を実施。特別なことほしなく「通常診療群」では1年間に8割の治療中断があったのに対し、電話などで受診を促したり療養の助言をしたりする「支援群」では中断は3割にとどまった。

糖尿病で治療中の患者は国内に約620万人（12年国民健康・栄養調査）で、ほとんどは2

型。その8割という2年に約50万人が治療を中断する計算になる。「中断者には合併症が多いことが過去の研究で分かっている。医療側の働きかけで中断が減らされると分かった意味は大きい」と研究代表の野田洋彦・国立国際医療研究センター「糖尿病研究部長は言う。

研究班が、過去の研究も加味して中断者を分析すると、働いている男性で50歳未満、血糖コントロールが悪い人が多い、逆にかなり良い人も多い―といった特徴が浮かんだ。中断理由を複数回答で尋ねると「忙し」「体調が良くない」「医療費が負担」などが多かった。野田さんは「中断の背景を理解した上で医師も

午後7時までのクリニックを開いている浦野洋子医師（名古屋市東区）

●病院側の工夫で継続

既に通じたしている医療機関もある。糖尿病治療が専門の朝日生命成人病研究所（東京）は11年、初診時の患者への個別指導を実施させた。医師の診察に続き「糖尿病とほっとんな病気が、生活のことを見直すと効果的かな」とについて、看護師と栄養士が時間をかけて患者と話し合う。「中断防止を意識して始めたのではありませんが、調べてみると指導を受けた人の中断率は受けていない人より4割程度低かった」と吉田洋子診療部長。

「糖尿病は自覚症状がないので、治療が必要かについて最初に理解することが継続意欲につながるのでは」と推測する。

名古屋市在住のクリニクを営む三浦義孝医師は、平日夜7時半まで診療を受け付けている。「勤め人男性が通院しやすいように」というのが理由の一つだ。大病院で糖尿病の診療に当たっていたことは三浦さんは、男性の治療中断は予約を1度キャンセルした後に起きやすいと感じていた。多忙で予約の日に来られない人は、次の予約日も決めにくい。だから開業後は予約なしの受診も可とした。

「選択の幅が広がれば治療は継続しやすい。ご主人の足が遠のいた時、奥さんを通じて注意喚起できるのも、家族を診ている開業医の強み」と話す。

●経験者が大切と訴え

兵庫県尼崎市の負じル業、高本誠介さん（58）は、35歳から20年以上、この病気を付き合っている。一時は血糖値を下げることにこだわりすぎて燃え尽きたようになり、治療に燃気が差したこともあった。

同じく発症した同年代の知人は治療中断の結果、視力の低下で仕事が続けられなくなり、腎臓も悪化して人工透析を受けているという。インスリン注射をしつつスポーツも外食も楽しんでいる高本さんは現在、医療関係者と患者をつくる日本糖尿病協会理事として治療継続の大切さを訴えている。

V 主なマスコミ報道

8) NHK 総合テレビ(首都圏) 2014年11月13日(木)午後6:10~6:52「首都圏ネットワーク」糖尿病治療 中断に注意

NHKオンライン > 番組表ウオッチ！ > 番組詳細

番組詳細

印刷

番組タイトル: 首都圏ネットワーク	チャンネル: 総合 放送日時: 2014年11月13日(木) 午後6:10~午後6:52(42分) ジャンル: ニュース/報道 > ローカル・地域 ニュース/報道 > 特集・ドキュメント 情報/ワイドショー >暮らし・住まい
番組HP: http://www.nhk.or.jp/shutoken/net/	
番組内容	▽応募の倍率12.5倍! リニアの体験乗車会 ▽糖尿病治療 中断に注意 【キャスター】橋本奈穂子, 田中洋行, 【気象キャスター】関口奈美

